

令和5年度 府中市立府中第八中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きが苦手な生徒が多く、継続して練習する習慣がない。 文章を書き慣れていない。 発言や話し合いの機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、授業開始5分は漢字練習時間を取る。 単元ごとに課題作文の時間を設定する。その際、書き方の型や見本を必ず提示する。 各単元で、意見が対立する発問を仕掛け、話し合いができるようにする。 	B	B
数学	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返しできるようにするまで練習を重ねる習慣、環境がないため、できるようにする生徒とできないままの生徒の二極化が見られる。 式の意味や立式の理由など言葉を使った活動に苦手意識が見られる。 新しい学習内容に進んだ際、既習事項を忘れてしまうなど定着まで至っていない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算等くり返し練習が必要な内容では、説明時間をできるだけ短くするように努める。 発問に対する答えだけではなく、考えた過程や理由も答えさせる機会を設ける。 既習事項との関連をこまめに伝えることで、知識・技能をつなげやすい学習環境を整えるように努める。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な内容の丸暗記までにとどまり、その内容をしっかり理解している生徒はそれほど多くない。 学習した内容を活用することに課題が見られる。 家庭学習などを主体的に取り組む生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの事象に対して、多角的に捉えられるような発問をしたり、生活に関連した内容を紹介したりする。 話し合い活動を通して、知識を活用させる課題などでお互いに教え合う場面を増やす。 まとめレポートの作成やデジタルドリルの活用を促す。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 情報を収集し、社会的事象の意義や特色、相互の関連性まで結び付けられるような理解力の構築を図る必要がある。 家庭学習などを主体的に取り組む生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的分野では情報を収集して読み取る活動や、これを基にして考察や、判断した結果を表現する活動を行う。 歴史的分野では社会的事象を時期、推移などに着目し、ICTの活用により視覚的に歴史的事象の推移を確認できるようにする。 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中できない生徒が各クラスに何人かいる。 正しい発声法が身に付いていない。 考えをまとめ、言葉にすることや記述することの力が付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声の仕組みを理解させ、正しい発声法を身に付けることに意欲をもたせる。 表現の工夫において話し合い活動をさせ、言語化に対する力を身に付けさせる。 合唱コンクールに向けてクラスで協力して創り上げる喜びを感じ、達成感を味わえるようにする。 	B	B
美術	<ul style="list-style-type: none"> 「季節を表す絵文字」にてデザインを決める際に自分で考えず、参考資料をそのまま利用することがある。 絵の具での着色の際に、試し塗りをせずに作業を進め、失敗につながる様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入の際に完成された参考資料を多く見せるのではなく、素材となる物を多く提示し自分たちで考えさせる必要がある。 試し塗り専用の紙を用意し、好きに使用できることを伝え、積極的に試し塗りを行えるように促す。 	B	B
技術	<ul style="list-style-type: none"> 知識で得たことを実技や生活に関連付けることが苦手である。 製作を主体的に行う生徒もいるが、人に聞いたり、真似したりして行う生徒が多い。 調べ学習では、ネット検索で出たものをそのまま活用し、自身が理解できていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識が実技や生活に関連していることを提示し気付かせる。 製作では、共通した課題設定を行い、人に頼らず自身で進められるようにする。 調べ学習では、ネット検索したものを発表につなげ、知識の定着を図る。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 食分野に対して興味関心のある生徒が多いが、家庭での調理経験は少ない生徒が多い。 自分の考えをまとめ、言語化することが苦手な生徒が多い。 家庭での課題の取り組みは、意欲の差が大きく見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学習したことが日々の暮らしで生かしていけるように、繰り返し学習をさせ知識や技能の定着を図る。 自分で考える場面だけでなく、グループ学習の機会を増やし、学び合う場面をつくる。 	B	B
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に関する多くの種目・分野においての経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での学習をふまえ、より専門的な知識技能を習得し「できた」「わかった」と感じられるようにするため、よりスモールステップを設定し、種目のある程度絞ってでも時間をかけていく。 	B	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 話すことや聞くことは得意な生徒が多いが、英語を正確に書くことに関しては苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストやスピーキングコンテストを定期的実施し、英語を書くことに慣れさせていく。また、話す活動も授業内で取り入れ、話すことや聞くことに関する力も高めさせる。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第八中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力が不足している。 自らの考えをもち、それを文章化するのが苦手である。 班活動において、言語を通しての意志の疎通を図るのが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きを習得する時間を継続して設ける。 短作文を書く場面を設定する。 意見を交流させる機会を多く作る。 	B	B
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な計算力が十分に備わっていない生徒が一定数いる。 発展学習に対して、主体的に取り組むことができず、諦めてしまう生徒が多い。 図形に対する苦手意識が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業の中で、1・2問、基本的な計算問題に取り組ませ、計算問題に慣れさせる。 自ら考えると同時に、グループでの話し合い活動を積極的に導入し、解法等を「考える」作業を増やす。 板書以外にも ICT を使い、視覚的に解りやすくすることで、生徒の興味関心を引き出す。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容を十分理解できていない生徒が一定数見られる。 学習習慣が身に付いていない生徒が見られる。 実験の考察などにおいて、粘り強く考えることを苦手としている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内での振り返りを大切に、基礎的・基本的な事項の定着を図る。 定期的に小テストを行うことで家庭学習の習慣を促し、知識の定着を目指す。 生徒がスモールステップで取り組みやすくなるように、問いの設定を見直す。また、話し合いの活動をさらに充実させて、仲間と協働して課題を解決する機会を増やす。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事象に関し、興味関心を抱き、自分の考えを自分の言葉で表現、説明できる能力を育むことを目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを生かし、基礎・基本を自宅でも確認できるような教材を Google Classroom 経由で用意する。 複数の事項やキーワードを活用し、社会的な事象を説明する能力を育む。 様々な資料を提示し、資料活用能力を高める。 必須の用語に関しては授業終了ごとに確認する。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の解釈や批評の力が弱く言語化することが苦手な生徒が各クラスにいる。 他の声部を意識しながら表現することに改善の必要がある。 楽譜の読み込みなど、内容を深めていく力が付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> どう表現したいかを明確にしてその方法を実践できる力をはぐむ。 パートでの話し合いや発表を通して楽譜への書き込みを定着させる。 合唱コンクールに向けてクラスで協力して一つのを創り上げる喜びを感じ、達成感を味わえるようにする。 	B	B
美術	<ul style="list-style-type: none"> 環境ポスターのアイデア作りが進められない ポスターのテーマを強調する工夫ができない。 広い色面を均一に塗りつぶすことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 図鑑や専門書、タブレットなどを整備し、資料活用の充実をさらに図る。 拡大、省略など各種技法の紹介と効果確認のためのアイデアスケッチをさせる。 平筆や刷毛の使い方の違いを理解させ、特性を生かしながら均一な塗り方を心がけさせる。 	B	B
技術	<ul style="list-style-type: none"> 知識で得たことを実技や生活に関連付けることが苦手である。 製作を主体的に行う生徒もいるが、人に聞いたり、真似したりして行う生徒が多い。 調べ学習では、ネット検索で出たものをそのまま活用し、自身が理解できていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識が実技や生活に関連していることを気付かせる。 製作では、共通した課題設定を行うとともに、各自が応用し工夫できること増やしていく。 調べ学習では、ネット検索したものを複数あげさせ、様々な見方があることを考えさせる。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 食分野に対して興味関心のある生徒が多いが、家庭での調理経験は少ない生徒が多い。 自分の考えをまとめ、言語化することが苦手な生徒が多い。 家庭での課題の取り組みは、意欲の差が大きく見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学習したことが日々の暮らしで活かしていけるように、繰り返し学習をして知識や技能を定着させる。 自分で考える場面だけでなく、グループ学習の機会を増やし、学び合う場面をつくる。 	B	B
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 指示された課題には取り組めるが、自ら課題を見つけ主体的に取り組むことが難しい。自ら練習方法などを考える力に課題が見られる。 指示されてから、実践するまでに時間がかかる。 学習カード、ワークシート等で考えたこと、感じたことを次に繋げたり、生かしたりすること等、表現する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの課題に気付き、課題を明確にし、自分やグループの課題解決に向けて主体的に取り組む力を育てる。 単元のねらいや種目の特性を明確に伝え、あきらめず主体性、運動、スポーツに積極的に楽しみながら、主体的に取り組む力を育てる。 学習カードやワークシート等で振り返りする機会を作り、感じたことや考えたことを言語化し、課題に継続して取り組み、表現する力を育てる。 	B	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能で得たことを speaking や writing で表現することが苦手な生徒が多い。 使える単語に限られており、語彙力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと（やり取り）の授業内での取り組みの強化する。 知識・技能の強化のための個別対策の強化と e ライブの積極的活用を行う。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第八中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少ないため、筆者の主張や資料を踏まえて作文をすることが苦手である。 文章の読み取りの正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に使用しやすい語彙を確認したうえで、必要な言葉を選んで書くことができるようにする。 教科書のみとせず、文章の読み取りに特化したテキストを用い、様々な問題に慣れさせる。 	B	A
数学	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末考査において思考・判断・表現の観点の学年平均到達度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考力、判断力、表現力等】 学年の領域や単元の領域を横断する学習内容を統合的・発展的に考える学習活動を取り入れる。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な内容の丸暗記までにとどまり、その内容を本質的に理解している生徒はそれほど多くない。 学習した内容を活用することに課題が見られる。 家庭学習などを主体的に取り組む生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの事象に対して、多角的に捉えられるような発問をしたり、生活に関連した内容を紹介したりする。 話し合い活動を通して、知識を活用させる課題などでお互いに教え合う場面を増やす。 まとめレポートの作成やデジタルドリルの活用を促す。 	B	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ重要語句などの知識や、資料活用の技能を生かして、思考力を深めることができていない。 知識を覚えただけで、単元の全体像を俯瞰することができない。 出題の意図に的確に答えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力を高めるために、「なぜ」の発問を増やし、学んだことを活用して取り組むワークシートにする。 単元ごとに、何のために何を学ぶのか、全体像を捉えさせる導入を実践する。 基礎的、基本的な知識定着を図る小テストを実施する。 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> アナリーゼの力が弱い。 表現の工夫や鑑賞の批評を深める力が弱い。 正しい発声法で音量を上げていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> アナリーゼの力を付けさせるように楽譜の書き込みなど、授業のパート練習時にアドバイスをしていく。 考えを言語化して発表させ、周りの発表を聴くことで表現を深められるようにする。 安定した発声で音量の幅を出せるような発声練習に取り組ませる。 	B	B
美術	<ul style="list-style-type: none"> 模写の制作で、写し取っていくのに時間がかかる。 模写の制作で、形や位置を正確に写し取れない。 模写の制作で、色彩を再現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 原画と制作用紙に引いた補助線との比較方法と、写し取る手順を学ばせる。 原画と制作用紙との複数の比較方法を学び、検討を重ねて精度をさらに高めさせる。 着彩する優先順位を確認し、重色の技法と絵の具を溶く水の分量の重要性を理解させる。 	B	B
技術	<ul style="list-style-type: none"> 知識で得たことを実技や生活に関連付けることが苦手である。 製作を主体的に行う生徒もいるが、人に聞いたり、真似したりして行う生徒が多い。 調べ学習では、ネット検索で出たものをそのまま活用し、自身が理解できていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識が実技や生活に関連していることを気づかせ、よりよい生活ができる工夫を考えさせる。 製作では、説明とプリントで理解し、各自が工夫できること増やしていく。 調べ学習では、ネット検索したものを複数あげさせ、様々な考えから、自身の意見をまとめられるようにする。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を実生活と照らし合わせ、課題について具体的に自分なりの言葉で表現することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学習したことが日々の暮らしで活かしていけるように、繰り返し学習をさせ知識や技能の定着を図る。 自分で考える場面だけでなく、グループ学習の機会を増やし、学び合うきっかけをつくる。 	B	B
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して積極的に取り組むことができるが、主体的に考え判断し、課題を解決しようとする意識は低い。 感じたことや、考えたことを具体的に表現し、伝える力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題についての認識を深めさせ、自分で考え判断できる問いかけや、活動を今まで以上に設定していく。 学習カードやレポートに自分の言葉や文章で記入できるような形式に変更していく。 	B	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」に比べ、「思考力・判断力・表現力」の評価が10%～15%低い生徒が多い。 スピーキングに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと」の授業内での取り組みを強化する。 時間内で考えをまとめ、表現する取り組みを行う。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。